

第 1 回千葉療護センターの老朽化対策検討会

1. 日時：令和 4 年 7 月 26 日（火）13 時 00 分～15 時 00 分
2. 場所：Web 会議
3. 出席者：麦倉座長、岩堀委員、緒方委員、片山委員、桑山委員、小林委員、
出口委員
オブザーバー：東北療護センター、中部療護センター、岡山療護センター

4. 概要：

会議冒頭において、麦倉委員を座長に選任した。

以降、麦倉座長による進行により、議事次第に沿って、事務局から資料 5 以外の資料、小林委員から資料 5 に沿って説明が行われた。

委員から出された主な意見・質問は以下の通り。

（議題 2 療護施設の概要について）

- ・本検討会において、急性期以降で状態が安定した方を受け入れ治療等を行うという現在の千葉療護センターの役割を変更することが目的とされているか。
→本検討会において、役割の変更は視野に入れていない。
- ・急性期における ICU 等の施設基準や 1 病室でのベッド数制限などを考慮せずに検討することでよいか。
→現行のセンターにおいても、患者一人あたりの床面積が（療養病床の基準 6.4 m²を超え）ICU の並みの 16 m²となっているとおり、制約なく議論していただきたい。
- ・次回以降、千葉療護センターの視察を踏まえて議論できないか。
→検討したい。

（議題 3 千葉療護センターの現状と課題について）

- ・災害に関して、津波よりも高潮浸水の方にリスクが高いという認識で問題ないか。
→千葉県が公表しているハザードマップによると、千葉療護センターの場所において津波被害はなく、資料にあるとおり、高潮浸水の被害があると想定されている。

- ・災害に関して検討する上で、液状化等地震の被害について検討しないのか。
- 東日本大震災において千葉療護センター周辺でも液状化があり、センター敷地内も影響を受けており、現地視察の際にご確認いただきたい。地震対策としては、ハード対策も重要であるが、老朽化対策の本検討会の枠外であるがソフト対策も必要であると認識している。
- ・液状化対策は重要な検討事項である。建物の基礎をしっかりとしても、建物周囲が沈下して建物から出られないことも想定される。患者等が安全に避難できるように検討すべき。
- ・今後数十年使用する建物として、地震対策として2, 3階への避難経路の確保を含めて検討いただきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症がまん延する以前は、家族が患者を車いすでセンター周辺を散歩することもあったが、患者の容態が急変した際にすぐさま対応するためには職員から離れたところはリスクが高い。職員がすぐに対応できるように、敷地内に散歩できる空間が望ましい。
- ・感染症対策について、新型コロナウイルスに関して当初、飛沫・接触感染とされていたが、実態は空気感染なみとして飛沫と接触についての検討のみでは不足しているのではないか。
- 空調で対応可能なのか、実際の仕切りが必要なのかなど、今後、具体的な感染対策を議論していきたい。

(議題4 千葉療護センターからの報告)

- ・患者の血液検査等は病院（センター）内で行っているのか。
- 血液検査、X線検査、脳波検査等の一般的な検査は病院内で実施している。一部、特殊なホルモン検査などは外注することもある。
- ・千葉療護センターの設立時である38年前を考慮すると、遷延性意識障害者の患者のうち3分の1の方が回復することは大きな成果である。
- ・患者の状態が回復する理由をどのように考えているか。
- 改善効果の理由は多岐に亘る。遷延性意識障害者のわずかな兆候も見逃さないこと、全身状態を良くしていくこと、抗痙攣剤のコントロール、水頭症シャントの調整など従来の方法をしっかり行うことで改善効果が得られている。

- ・プライマリーナーシングなどで看護師にストレスが掛かっているなどが予想され、スタッフの仕事環境も重要な検討事項であり、今後検討してもらいたい。
- ・リハビリスペースの確保など治療を優先するために職員食堂を閉鎖するなどスタッフのスペースが削減されてきた経緯があることを踏まえると、職員の労働環境については考慮した対策が必要である。
- ・在宅介護を行っている、気管切開をしている場合に利用できるサービスが少なく、通所できるような介護施設も少ないため、在宅介護の支援として、気管切開を閉鎖するようなことも必要である。
- ・在宅支援として週3回までの訪問リハが最大であるが、訪問リハを行っている施設が少ないのが現状である。そのため、療護センターで数か月リハビリを行っているだけけることは非常に需要があるのではないか。
- ・リハビリのための理想的な入院期間は一概に言えないが、維持期のリハビリだとレスパイト目的で2週間ほどである。何か目的をもって入院するのであれば、それ以上の期間が必要であるが、訪問リハの先生と調整するために今まで以上に地域連携が重要となる。
- ・リハビリ目的の入院は、地域連携のほか、作業療法士の充実や目的の明確化が必要となる。
- ・患者の高齢化について地域で対応するのか、療護センターで対応するのか検討する必要がある。

(議題6 検討課題の整理とニーズ把握について)

- ・仮に千葉療護センターを建て替えるとした場合、その工事期間中に医療サービスの提供をどのようにするのか。
- 入院されている患者は引き続き千葉療護センターで看ることを考えているが、敷地が狭隘な中で工事を行うため、センターの機能をすべて維持するかについては検討する必要がある。
- ・ワンフロア病棟システムについてアンケートで聞くこととする意図は何か。
- ワンフロア病棟システムは設立当初から継続してきたものであり、変更に際しては利用者の意見をしっかり把握するため、設問が細かくなっている。